

2014/6/15
父の日礼拝

債務なし

コロサイの信徒への手紙2:13~15

肉に割礼を受けず、罪の中にいて死んでいたあなたがたを、神はキリストと共に生かしてくださったのです。神は、わたしたちの一切の罪を赦し、規則によってわたしたちを訴えて不利に陥れていた証書を破棄し、これを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。そして、もろもろの支配と権威の武装を解除し、キリストの勝利の列に従えて、公然とさらしものになりました。

キリストと共に生かされている

- 私たちは「罪の中に死んでいた」
 - 「肉に割礼を受けず」：ユダヤ人でないこと
 - 「罪」によって神との関係が壊れ、死んだも同然
- 神は生かしてくださった
 - 自分の力で生きているのではない
- 「キリストと共に」生かされている
 - 一人で生きているのではない
 - 復活されたキリストが私たちと共におられる
 - 「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

どうしてそう言い切れるのか？

- 「神は、わたしたちの一切の罪を赦」された
 - 「赦す」：“無償で与える”の意。「恵み」と同じ語源
- 「規則によってわたしたちを訴えて不利に陥れていた証書」＜借用証書＞
 - 私たち自身が犯してきた罪の記録
 - やってしまったこと・やらなかったこと
- 「を破棄し、これを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました」
 - イエス・キリストが代わりに払ってくださった

十字架という完済証明

- 十字架はキリストの無力を証明したかに見えた
 - 死人さえ生き返らせた人がなすすべ無く殺された
- キリストは自分のためではなく、私たちのために死なれた＜世界でたったひとりだけ＞
 - 「十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。」ペトロ一2:14
- 十字架はそれが間違いない事実であることの証拠
 - 借用証書の上に書かれた大きな「**×**」

無慈悲な家来<マタイ18:24~>

決済し始めたところ、一万タラントン(約**6000億円**!)借金している家来が、王の前に連れて来られた。しかし、返済できなかったので、主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。家来はひれ伏し、『どうか待ってください。きっと全部お返しします』としきりに願った。その家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった。ところが、この家来は外に出て、自分に百デナリオン(約**100万円**)の借金をしている仲間に出会うと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』としきりに頼んだ。

しかし、承知せず、その仲間を引っぱって行き、借金を返すまでと牢に入れた。仲間たちは、事の次第を見て非常に心を痛め、主君の前に出て事件を残らず告げた。そこで、主君はその家来を呼びつけて言った。『不屈きな家来だ。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか。』そして、主君は怒って、借金をすっかり返済するまでと、家来を牢役人に引き渡した。あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。」

私たちの借金

- 私たちは神様に対して莫大な借金をしている
 - 「借金」=赦されなければならないこと
- その借金は自分の力では返せない
 - 大きすぎて分からないほど(日本の借金?)
- 慈悲深い神様はその借金をすべて「肩代わり」して帳消しにしてくださった
 - 一人息子に払わせた
- それなのに私たちは他人を赦せない
 - つまらないことで腹を立て、批判したり裁いたり...

十字架は完全勝利の印

「そして、もろもろの支配と権威の武装を解除し、キリストの勝利の列に従えて、公然とさらしものになさいました。」

- 十字架はこの世の力を無力にした
 - サタンはキリストを十字架につけて勝利したと思ったが
- かえってキリストの勝利を決定的にした
 - 「死は勝利にのみ込まれた。死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげはどこにあるのか。」コリント一15:54～55

債務なし

「神は、わたしたちの一切の罪を赦し、規則によってわたしたちを訴えて不利に陥れていた証書を破棄し、これを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。」